

高津の さんぽみち

おおやまこみちでおやままいり
大山小径で大山詣り

大山街道コースは、江戸庶民の間に流行した大山詣りの面影を探ることができるルートです。コースを歩くと由緒ある神社仏閣、文学碑、蔵造りの建物などを見ることができます。

また、大山街道は、駅前商店街としての魅力もあり、夏に開催される高津区民祭では伝統の納め太刀、お神輿や万灯などのパレードでにぎわい、地域に親しまれる存在となっています。

時の流れを肌で感じながらのんびり歩いてはいかがでしょうか。



納め太刀
高津区民祭



ねもじり坂
眺望ポイント

高津区役所

～ 高津区では、地域の魅力を生かしたさんぽみちを設けています。～

令和2年1月
企画課044(861)3135



B 二子の渡し (ふたこのわたり)

二子と瀬田を結ぶ旧大山街道の渡し。江戸時代には大山詣りの参拝客などで賑わい、また相模地方の産物を江戸に送る流通経路としても利用された。湯水期となる冬は土橋を、その他のときは渡し船を使い武士は無料だった。現在は二子の渡し場に通じる道標が残っている。

C 灰吹屋 (はいふきや)

灰吹屋薬局は江戸時代に鈴木仁兵衛が創業し、街道で唯一の薬屋として繁盛していた。店舗として使われていた蔵が今も残されている。

O 宗隆寺と御会式、万灯

(そうりゅうじとおえしき、まんどう)
毎年10月21日の御会式には多くの万灯が集まる。ここにある芭蕉の句碑は、大山街道からみた田植えの情景がこの句に似ていることから、灰吹屋の鈴木仁兵衛がつくったもの。

C 二子神社と岡本かの子文学碑

(ふたこじんじやとおかもとかのこぶながくひ)
境内にはかの子の息子、岡本太郎の作で「誇り」と題する彫刻がある。台座と築山は丹下健三が設計した。また、台座には川端康成の揮毫で「としとにわが悲しみは深くして いよよ華やぐいのちなりけり」というかの子の歌碑がある。

H 大山小径 (おおやまこみち)

大山街道から高津こども文化センターへと続く道。道の両脇には江戸時代に発行された「新板往来双六」を参考に、大山までの街道を紹介したタイルが埋まっている。

P 庚申塔と大山道標

(こうしんとうとおやまどうひょう)
片町の十字路に江戸時代の道標をかねた庚申塔がある。青面金剛が邪鬼を踏んで立ち、下に見える言わざる聞かざるの三猿が刻まれている。庚申待ちは、庚申の夜に眠ると人の体にいる三尸(さんし)が抜け出して、罪を天帝に告げるといわれ世間ばなしや村の決めごとなどをして徹夜する俗習。

F 溝口緑地と国木田独歩の碑

(みそのくちりょくちとくにきだつぽのひ)
旧亀屋(旅人宿)に一泊した独歩は、その主人を「忘れぬ人々」の一人として描いた。昭和9年(1934年)、亀屋主人、鈴木久吉の立案で建てられ、題字は島崎藤村によるものである。平成14年(2002年)旧亀屋跡から高津図書館前へ移設された。

J 大山街道ふるさと館

(おおやまかいどうふるさとかん)
大山街道および地域に関する様々な資料を展示している。大山街道歩きの際に気軽に立ち寄れる休憩スポットとしても利用できる。また、講演会やまち歩きなどのイベントも毎年開催されている。

S 笹の原の子育て地蔵

(ささのはらのこぞだてじぞう)
昔、子供を授からない夫婦が四国八十八ヶ所を巡拝して、子供を授かったのでお礼に地蔵尊を建立した。12年ごとに開帳される「都筑橋樹西年地蔵」の第18番札所にあたる。平成5年(1993年)、西年の御開帳にあわせて新しいお堂がつけられた。

